

八ヶ岳観光圏整備計画書

平成25年4月

山梨県、長野県、北杜市、富士見町、原村

目 次

1. 計画の位置づけ	1
(1) 計画の名称	1
(2) 計画の位置づけ	1
(3) 計画策定年月日	1
2. 基本的事項	2
(1) 観光圏の区域	2
①八ヶ岳観光圏の区域	2
②設定理由	2
③連絡先	3
(2) 滞在促進地区の区域	4
①主たる滞在促進地区	4
②その他滞在促進地区	4
(3) 観光圏整備事業の実施体制	5
①主たる滞在促進地区における実施体制	5
②交流地区における実施体制	5
(4) 観光圏整備計画の目標	9
①量的目標（観光客数、宿泊客数）	9
②質的目標（顧客満足度）	10
(5) 計画期間	11
(6) 住民その他利害関係者の意見を反映させるための措置及び反映内容	11
3. 観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する基本的な方針	12
(1) 計画対象地区の現況と特性	12
①自然特性	12
②人口、社会・産業特性等	12
③歴史、文化特性等	13
④総合計画等に見る観光の位置づけ	15
(2) 地域資源の現況と観光特性	20
①各エリア別の特徴	20
②観光資源・地域資源	22
③年中行事・イベント	23

④宿泊収容力	23
⑤観光客数及び宿泊客数	27
(3) 観光地域づくりを達成するための課題	27
①市町村別の課題	29
②地域共通の課題	29
③地域に根ざした固有の魅力	32
(4) 観光圏の整備に関する基本的な方針	34
4. 観光圏整備事業の概要	36
(1) 主たる滞在促進地区を起点とする滞在プログラム企画促進	36
(2) 主たる滞在促進地区における事業	36
(3) 交流地区における滞在・回遊促進事業	37
(4) 住民に対する意識啓発等事業	37
(5) その他の事業	37
5. 協議会に関する資料等	38
(1) 協議会名称	38
(2) 協議会構成員	38
(3) 八ヶ岳観光圏整備推進協議会規約	39
6. その他市町村または都道府県が必要と認める事項	43

1. 計画の位置づけ等

(1) 計画の名称

八ヶ岳観光圏整備計画書

(2) 計画の位置づけ

「八ヶ岳観光圏整備計画」（以下、本計画）とは、「観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する法律」第4条の規定に即し、山梨県、長野県、北杜市、富士見町、原村が、同法基本方針に基づき、共同して当該区域について観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進を総合的かつ一体的に図るための計画として定めるものである。

同法に基づき、本計画には、以下に掲げる事項を定めることとする。

1. 観光圏の区域
2. 滞在促進地区の区域
3. 観光圏整備事業の実施体制
4. 観光圏整備計画の目標
5. 計画期間
6. 住民その他利害関係者の意見を反映させるための措置及び反映内容
7. 観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する基本的な方針
8. 観光圏整備事業の概要
9. 協議会に関する資料等
10. 前号に掲げるもののほか、観光圏整備計画の実施に関し当該市町村又は都道府県が必要と認める事項

本計画は、構成員である山梨県、長野県、北杜市、富士見町、原村が共同で策定するものである。

(3) 計画策定年月日

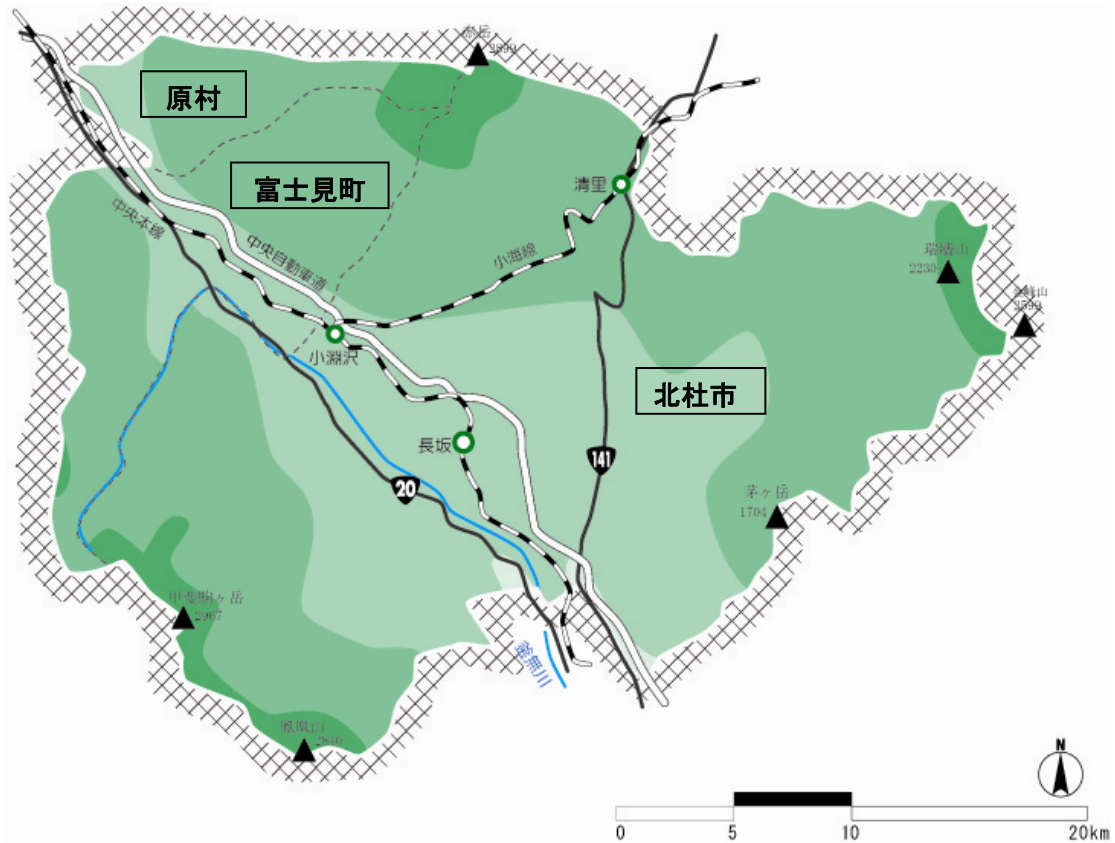
平成25年4月 日 策定

2. 基本的事項

(1) 観光圏の区域

①八ヶ岳観光圏の区域

山梨県：北杜市、長野県：富士見町、原村



②設定理由

八ヶ岳観光圏を構成する山梨県北杜市、長野県富士見町及び原村は山梨県と長野県の県境にそびえる日本百名山の一つである八ヶ岳の主峰赤岳より南側に広がる地域で県境を挟んで東側の北杜市、西側の富士見町及び原村が位置し、八ヶ岳南麓の豊かな自然環境と長い日照時間、夏季は冷涼、八ヶ岳や南アルプスの眺望、富士山が遠望される優れた景観を有している地域である。またその豊かな自然は、約 30 分以内の移動で標高差が 1,000m にもなる変化のある地形のため、花や紅葉の時期のずれや農産物の収穫時期や種類の違い等にも変化が見られる。

このエリアは古くは約 5,000 年前、井戸尻文化といわれる共通の文化が栄え、縄文銀座とも云われるほど多くの人々が住み、素晴らしい造形の土器をつくり栄えた地域であった。また以前より別荘戸数が定住戸数とほぼ同じくらいあり、現在も癒しを求め別荘が建ち、美術館や工房等も数多く点在し、芸術家やクラフトマン等が創造の地として移り住み工房等を開いている状況は縄文時代から現在まで「住んでよし」を実証しているエリアである。

現在、このエリアに住む人々は北杜市から日用品の購入のため富士見町のショッピングモールを訪れたり、病院の利用、小中学、高校生が近くにある学校へお互いの県域を越え通学していたり、八ヶ岳エリアの生活圏は県域を越えお互いの不便な部分を補い合ってきた。

平成20年に行政や観光協会等団体等で環境美化や自然保護を目的として南北八ヶ岳保護管理運営協議会（北杜市、富士見町、原村を含む10市町村）を設立し活動を行っているほか、北杜市と富士見町は隣接することから平成18年に広域消防相互応援協定を結んでいる。また民間宿泊施設及び日帰り観光施設が連携し2次交通等の事業を手がけていた「八ヶ岳南麓やとわれ支配人会」、美術館や博物館では「八ヶ岳ミュージアム協議会」、花卉園芸等では「八ヶ岳グリーンネットワーク」が立ち上がり交流を深め、また事業を展開している。

このエリアは、首都圏から2～3時間圏に位置し、圏域の玄関口である北杜市小淵沢町は、県域を越えたエリア内の交流地区のほぼ中心であり、車で30分以内で主たる滞在促進地区である小海線沿線滞在促進地区や圏域内に点在している八ヶ岳南麓高原交流地区をはじめとする各交流地区が放射状に位置しているため「道の駅こぶちさわ」を「(仮称)八ヶ岳観光案内所」として認定観光案内所に位置づけることにより、それぞれのエリアで来訪者が望む滞在プランを提供することができる範囲であることから八ヶ岳観光圏の区域に設定した。

②連絡先

八ヶ岳観光圏整備推進協議会事務局

所 在 山梨県北杜市須玉町大豆生田961-1

名 称 北杜市役所産業観光部観光・商工課

事務局長 観光・商工課長 中 田 二 照

E-mail : nakada-tsu@city.hokuto.lg.jp

事務局員 観光・商工課観光振興担当 中 山 和 彦

E-mail : nakayama-kzh@city.hokuto.lg.jp

仲 山 直 樹

E-mail : nakayama-nao@city.hokuto.lg.jp

T E L 0 5 5 1 - 4 2 - 1 3 5 1

F A X 0 5 5 1 - 4 2 - 5 2 1 6

(*平成25年 月 日現在)

(2) 滞在促進地区の区域

①主たる滞在促進地区

名称 小海線沿線滞在促進地区

設定理由 JR小淵沢駅から清里までの小海線沿線周辺は、圏域で最も、大型のホテルや個人経営のペンションが集積している地区である。また、圏域の魅力を最も象徴する「県営八ヶ岳牧場天女山分場」等の観光資源、観光施設等も集積している地区である。

圏域への玄関口である小淵沢は、JR中央本線では特急の停車する駅であり、JR小海線の起点、そして2次交通の起点となっている。また自動車利用の場合、中央自動車道小淵沢I.Cからも程近い場所と利便性もよい。

そのため「道の駅こぶちさわ」に認定観光案内所として「(仮称)八ヶ岳観光案内所」を置き、ワンストップ窓口としての機能を持たせることで、主たる滞在促進地区内及び交流地区へ車で30分以内でアクセスすることが可能となることから本地区を主たる滞在促進地区と設定した。

②その他滞在促進地区

名称 増富温泉郷滞在促進地区

設定理由 増富ラジウム温泉郷はラジウム含有量世界一とも言われており、(財)みずがき山ふるさと振興財団などが中心となり、森林、遊休農地、温泉を活用した取り組みが行われている。

名称 富士見高原滞在促進地区

設定理由 スキー、ゴルフ、陸上競技、編笠山登山など四季を通してスポーツが楽しめる総合リゾート「富士見高原リゾート」を核に、ホテル、貸別荘、ペンションなどの宿泊施設が立地している。日本三大高峰が望める富士見高原創造の森の散策は人気を博している。

名称 原村ペンションビレッジ滞在促進地区

設定理由 八ヶ岳西麓で、北アルプス、中央アルプス、南アルプスを望む標高約1300メートル位置する原村のペンションビレッジは、日本有数のペンションリゾート。特徴的なペンションが数多く立地している。8つの森の小径が整備され環境・健康・そして感動へのいざないへと繋げている。

主たる滞在促進地区及びその他の滞在促進地区区域図

資料1参照

(3) 観光圏整備事業の実施体制

①主たる滞在促進地区における実施体制

一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントが全体総括として、北杜市観光協会、NPO法人清里観光振興会及び八ヶ岳南麓やとわれ支配人会等小海線沿線で活動している人々が連携し滞在プログラム、アクセス改善、宿泊サービス改善、人材育成に関するプログラムを企画、調整する。

また主たる滞在促進地区が在る北杜市は全体総括の支援を行う。

②交流地区における実施体制

●北杜市・八ヶ岳横断歩道交流地区

一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントが全体総括として、北杜市観光協会八ヶ岳南麓高原エリア部会、NPO法人清里観光振興会及びやとわれ支配人会等小海線沿線で活動している人々が連携し実施主体となり滞在プログラムの企画、実施を行う。

また八ヶ岳横断歩道交流地区が在る北杜市は全体総括の支援を行う。

●北杜市・金生遺跡・谷戸城址交流地区

一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントが全体総括として、北杜市観光協会八ヶ岳南麓高原エリア部会及びやとわれ支配人会等谷戸城址周辺で活動している人々が連携し実施主体となり滞在プログラムの企画、実施を行う。

また金生遺跡・谷戸城址交流地区が在る北杜市は全体総括の支援を行う。

●北杜市・オオムラサキ交流地区

一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントが全体総括として、北杜市観光協会八ヶ岳南麓高原エリア部会、北杜市立オオムラサキセンター等で活動している人々が連携し実施主体となり滞在プログラムの企画、実施を行う。

またオオムラサキ交流地区が在る北杜市は全体総括の支援を行う。

●三代校舎ふれあいの里交流地域

一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントが全体総括として、北杜市観光協会太陽と茅ヶ岳・瑞牆山エリア部会、(財)みずがき山ふるさと振興財団等三代校舎周辺で活動している人々が連携し実施主体となり滞在プログラムの企画、実施を行う。

また三代校舎ふれあいの里交流地区が在る北杜市は全体総括の支援を行う。

●北杜市・ひまわり畑とフラワーセンター交流地区

一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントが全体総括として、北杜市観光協会太陽と茅ヶ岳・瑞牆山エリア部会、山梨県立フラワーセンター及び明野農業振興公社等で活動している人々が連携し実施主体となり滞在プログラムの企画、実施を行う。

またひまわり畑とフラワーセンター交流地区が在る北杜市は全体総括の支援を行う。

●北杜市・神代桜とこめの郷交流地区

一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントが全体総括として、北杜市観光協会清流と甲斐駒ヶ岳エリア部会及び神代桜祭り実行委員会等で活動している人々が連携し実施主体となり滞在プログラムの企画、実施を行う。

また神代桜とこめの郷交流地区が在る北杜市は全体総括の支援を行う。

●北杜市・歴史と名水の里交流地区

一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントが全体総括として、北杜市観光協会清流と甲斐駒ヶ岳エリア部会及び台ヶ原宿周辺で活動している人々が連携し実施主体となり滞在プログラムの企画、実施を行う。

また歴史と名水の里交流地区が在る北杜市は全体総括の支援を行う。

●富士見町・入笠山交流地区

一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントが全体総括をして、富士見町観光協会及び社団法人富士見町開発公社等が連携し実施主体となり滞在プログラムの企画、実施を行う。

また入笠山交流地区が在る富士見町は全体総括の支援を行う。

●富士見町・第3のシナリオ交流地区

一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントが全体総括をして、富士見町観光協会等が連携し実施主体となり滞在プログラムの企画、実施を行う。

また第3のシナリオ交流地区が在る富士見町は全体総括の支援を行う。

●原村・8つの頂を望む高原交流地区

一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントが全体総括をして、原村観光連盟及び財団法人八ヶ岳自然文化園等が連携し実施主体となり滞在プログラムの企画、実施を行う。

また8つの頂を望む高原交流地区が在る原村は全体総括の支援を行う。

(4) 観光圏整備計画の目標

「1000mの天空リゾート八ヶ岳 ～澄みきった自分に還る場所～」

八ヶ岳観光圏の特徴は、「その昔、富士山と八ヶ岳が背比べをして、八ヶ岳は、日本の最高峰富士山を凌ぐ高さであった」と地域に民話として伝わるように、上層部は主峰赤岳や権現岳等鋭く切立つ峰々、下層部は東西約31km、南北約41kmと広大なスケールで裾野が広がる、言わば山岳リゾートと高原リゾートの2面を併せ持つところにある。

そのため、八ヶ岳南麓の豊かな自然環境と、八ヶ岳や南アルプス、瑞牆山等の眺望、さらに富士山が遠望される優れた景観を有する地域であり、そして、圏域内を約30分の移動時間で約1,000mの標高差を移動する“標高1,000mの立体空間”のため、花や紅葉等が織り成す日本の四季を2シーズン味わうことができる。

また、約5,000年前の縄文時代。縄文銀座と伝わるほど多くの人々が住み、素晴らしい造形の土器をつくり、栄えた地域であったことは、癒しを求め別荘が建つ状況、芸術家やクラフトマン等が創造の地として移り住み、工房等を開いている状況にも通じており、日本のミネラルウォーターの約3割を生産する名水の地であること、標高1,000mの気圧は、胎内圧に近い環境とも言われることと合わせ、安住の地であることも八ヶ岳観光圏のもつ魅力・価値である。

首都圏から約2時間という距離で、傑出した観光資源等があるわけではないが、過ごしやすい優れた自然環境や景観の中で滞在を楽しむことができる観光圏として、来訪者に「標高1,000mの癒しの空間と標高差1,000mの織り成す立体空間」の八ヶ岳の、「高原リゾート×山岳リゾート×青空・星空」の魅力で、「リセット (Reset)、リフレッシュ (Refresh)、リボーン (Re・born)」できる場所が提供できるエリアを目指す。

そのためには、エリア内に住む人々が地域に自信と誇りを持ち、四季折々の自然の中で楽しく生活できる環境を整えることが必要であり、その推進役としての観光地域づくりマネージャーや各種コンシェルジュ等の育成を毎年継続して行い、このエリアがいつまでも住む人々にとって「澄みきった自分に還る場所」であり続けること、また「澄みきった自分に還る場所に住む人々」とふれあったことが、来訪者にとってどこよりも「澄みきった自分に還る場所」となることを目標とする。

①量的目標（観光客数、宿泊客数）

当観光圏は既に多くの観光客が来訪している観光地であるため、量的（観光客数、宿泊客数）には大きな伸び（率）は見込めないものの、観光圏整備計画の目標年次である平成29年度には量的にも一定の成果が得られるよう、観光圏整備事業を組み立て、その確実な推進を図っていくこととする。

なお、年次毎の評価は、その都度、景気の動向や当観光圏を取り巻く環境等を的確に捉え

て総合的に判断し、次年度につなげていくこととする。

量的目標(観光客数、宿泊客数)

観光客数

		平成22年	平成23年	平成24年 (推計値)	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年 (最終年目標値)
北杜市	人	6,119,360	5,881,479	5,646,219	5,824,000	5,996,000	6,171,000	6,346,000	6,538,000
	%			100.0%	103.1%	106.2%	109.3%	112.4%	115.8%
富士見町	人	659,800	690,100	723,700	839,000	1,000,000	1,050,000	1,102,500	1,157,625
	%			100.0%	115.9%	138.2%	145.1%	152.3%	160.0%
原村	人	184,400	201,100	198,900	204,800	204,800	210,900	210,900	217,200
	%			100.0%	103.0%	103.0%	106.0%	106.0%	109.2%
計	人	6,963,560	6,772,679	6,568,819	6,867,800	7,200,800	7,431,900	7,659,400	7,912,825
	%			100.0%	104.6%	109.6%	113.1%	116.6%	120.5%

宿泊客数

		平成22年	平成23年	平成24年 (推計値)	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年 (最終年目標値)
北杜市	人	407,345	479,125	565,367	582,000	600,400	617,900	635,400	654,500
	%			100.0%	102.9%	106.2%	109.3%	112.4%	115.8%
富士見町	人	145,200	150,400	147,800	149,400	155,500	157,000	158,600	160,200
	%			100.0%	101.1%	105.2%	106.2%	107.3%	108.4%
原村	人	92,300	106,700	93,200	94,000	94,000	94,900	94,900	95,800
	%			100.0%	100.9%	100.9%	101.8%	101.8%	102.8%
計	人	644,845	736,225	806,367	825,400	849,900	869,800	888,900	910,500
	%			100.0%	102.4%	105.4%	107.9%	110.2%	112.9%

主たる滞在促進地区目標値

(1) 主たる滞在促進地区における来訪者の満足度・旅行消費額

	単位	24年(度)	25年(度)	26年(度)	27年(度)	28年(度)	29年(度)
●来訪者満足度		計 96.4	計 96.4	計 96.5	計 96.5	計 96.6	計 96.6
たいへん満足	%	25.0	26.2	27.6	28.9	31.8	35.0
満足	%	60.7	60.0	59.2	58.4	56.4	64.0
やや満足	%	10.7	10.2	9.7	9.2	8.4	7.6
●旅行消費額(平均消費額)	円	18,977	19,600	20,300	21,000	21,700	22,800

(2) 主たる滞在促進地区の宿泊数

	単位	24年(度)	25年(度)	26年(度)	27年(度)	28年(度)	29年(度)
●宿泊数	人泊	320,500	333,000	345,000	357,800	370,600	384,600
●リピーター率	%	25.5	26.5	27.5	28.5	29.6	30.6

(3) 主たる滞在促進地区を中心とした滞在プログラム参加者数・満足度

	単位	24年(度)	25年(度)	26年(度)	27年(度)	28年(度)	29年(度)
●参加者数	人	0	250	420	560	820	930

内訳（各プログラム参加人数の推移）							
天空リゾートを歩いて体感（春～秋編）	人	0	50	100	150	250	300
天空リゾートを歩いて体感（冬編）	人	0	50	60	80	120	130
天空リゾートを乗馬で巡る旅	人	0	0	40	60	100	110
標高差 1000m を自転車で巡る 日本 の名水の地への旅	人	0	60	100	120	150	160
ペンションオーナーと行く 天空の旅	人	0	40	60	80	100	110
八ヶ岳の 8 つの峰々に抱かれて穏やかな時を過ごす 高原の旅	人	0	50	60	70	100	120
●参加者満足度	%	0	60	80	85	90	95
内訳（全体における満足以上の割合の推移）							
天空リゾートを歩いて体感（春～秋編）	%	0	60	80	90	93	96
天空リゾートを歩いて体感（冬編）	%	0	60	80	85	90	95
天空リゾートを乗馬で巡る旅	%	0	60	80	85	90	93
標高差 1000m を自転車で巡る 日本 の名水の地への旅	%	0	60	80	85	88	92
ペンションオーナーと行く 天空の旅	%	0	60	80	85	88	92
八ヶ岳の 8 つの峰々に抱かれて穏やかな時を過ごす 高原の旅	%	0	60	80	85	88	92

②質的目標（顧客満足度）

八ヶ岳観光圏では平成 22 年、23 年に顧客満足度調査を実施した。その結果当観光圏の観光客像は性別では男女比がほぼ同数であり、年代では 40 から 60 歳代が全体の 7 割弱を占めている。来訪回数は「初めて」が 32.4%、「2～4 回」が 34.0%、「5 回以上」が 33.6%とリピーターの割合が多く、旅行全体の滞在種別ではおよそ 75%が宿泊客であるが、そのうち約 60%は 1 泊 2 日である。

八ヶ岳を訪れる目的は「自然や風景を見てまわる」が一番多く 7 割を超え、「温泉を楽しむ」「おいしいものを食べる」が続いている。全国では「おいしいものを食べる」が一番多

いが、八ヶ岳観光圏だからこそそのすばらしい自然の中で心身ともにリフレッシュすることを求める人が多い結果となった。

しかしながらこの調査の結果、八ヶ岳観光圏において改善の必要があるところとして、「廃墟のような建物や閉店している店舗への対応」「案内表示が十分でない」「雨や曇りの日に関する情報提供」「昔から、この土地の人が普通に食べている物を食べてみたい」「公共交通の充実」等、多種にわたり改善の必要があることを確認した。

今後に向けて、地域全体のホスピタリティ向上、食や特産品の魅力の向上とPRの強化、観光案内サインの整備、観光情報案内の整備、環境の保全の向上に向けた取り組みを行っていくことが大切である。

○観光地域づくりマネージャーの育成等により地域における継続的・自律的な活動体制を確立するための目標

観光地域づくりプラットフォームである一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントと観光地域づくりマネージャー、八ヶ岳観光圏整備推進協議会が密接に連携・協力を図りながら、事業に取り組んでいく。また、将来にわたる持続的・自立的な活動体制を確立するために、以下の人材・団体等の育成を目標とする。

- 「八ヶ岳観光ガイド」等の育成と組織化—八ヶ岳観光圏内の自然や歴史、文化を多くの方々が、より深く感じ、学び、楽しんでもらえるよう「八ヶ岳観光ガイド」(自然系、まちあるき系)を育成し、組織化する。
- 「観光圏整備事業」推進組織の育成・強化—八ヶ岳ツーリズムマネジメントが、観光地域づくりプラットフォームとしての役割を果たせるよう支援し、また、外部講師を招聘するなど、観光地域づくりマネージャーを育成・強化する。

(5) 計画期間等

本計画の期間は、平成25年4月1日から平成30年3月31日とする。

ただし、計画の進捗状況や社会情勢の変化及び環境に対する制度等の状況に合わせて、必要に応じて計画の見直しを行う。

●計画の見直しの手順

- ① 協議会代表者である「一般社団法人 八ヶ岳ツーリズムマネジメント」が、定期的に、各事業の進行状況を把握し、管理を行う。
- ② 年度毎に、「一般社団法人 八ヶ岳ツーリズムマネジメント」は各観光圏整備事業者とともに、その実行状況のとりまとめと、次年度以降の計画推進において各事業の改善へとつなげるために課題の抽出や重点的に取り組む事項などの検討を行う。
 - ・ PDCA サイクルの考え方にに基づき、各事業の実施状況、目標達成状況、今後の実施方針等を整理し、取りまとめる。

*Plan (計画の策定) -Do (計画の実行) -Check (実施状況の確認・評価) -Action (評価結果の計画への反映・計画の見直し)

上記を「八ヶ岳観光圏整備推進協議会」において点検・評価し、次年度以降の計画推進における事業展開の見直しに反映する。

(6) 住民その他利害関係者の意見を反映させるための措置及び反映状況

八ヶ岳観光圏整備推進協議会は、山梨県と長野県の県境をまたぐ3市町村の観光まちづくりに係わる多種多様な主体を構成員としている点が大きな特徴である。よって住民その他の利害関係者の意見や圏域内のニーズの把握は、協議会、ワーキング、市町村別ワーキング等の開催により行ってきた。

会議を重ねる中で、観光圏整備計画、同実施計画の作成と、観光まちづくりに対する気運の醸成、観光圏整備事業に対する理解促進を図ってきた中で、これからの観光圏域の将来像を探る中核人材が育成されてきた。今後も中核人材を中心に地域住民の意見を反映できる体制を整えていく

3. 観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する基本的な方針

(1) 計画対象地域の現況と特性

①自然特性

計画対象地域の八ヶ岳エリアは、山梨県と長野県の県境にそびえる日本百名山の一つである八ヶ岳の主峰赤岳より南側に広がる地域で、県境を挟んで東側の山梨県北杜市、西側の長野県富士見町及び原村で構成される。八ヶ岳は東京の西北西方向約120kmの距離のところに位置している。

北杜市は山梨県の甲府盆地の北西部に位置し、2004年11月1日に北巨摩郡の明野村、大泉村、須玉町、高根町、長坂町、白州町、武川村の7町村の合併により発足し、2006年3月15日に小淵沢町を編入して現在の姿になった。面積は603k㎡と広大である。

* 北杜市は、大きく八ヶ岳山麓の長坂町・大泉村・小淵沢町・高根町、甲斐駒ヶ岳山麓・釜無川流域の白州町・武川村、そして茅ヶ岳山麓・塩川流域の須玉町・明野村（・高根町）の3つに分けることができる。合併以前は、地理的な制約もあり、これらの地域を越えた連携は必ずしも活発ではなかったが、合併後、特に観光面において効果的な連携が民間を中心に図られている。

標高は明野町の集落のある400m附近から1,400m前後に広がる清里の冷涼な高原エリアに至り、周囲の山岳は八ヶ岳の主峰赤岳2,899m、南アルプスの甲斐駒ヶ岳2,866m、東部の瑞牆山2,230mに至る。山岳部は八ヶ岳中信高原国定公園、南アルプス国立公園及び県立南アルプス巨摩自然公園、秩父多摩甲斐国立公園に指定されている。面積の約76%が森林で、須玉町、大泉町、白州町、武川町では森林が占める割合が高く、総面積の80%以上あり、明野町、高根町、長坂町、小淵沢町では森林の占める割合が低く、農用地が占める割合が高くなっている。気象を大泉地区のデータで見ると、年平均気温は11℃前後、年間降水量は約1,100mmである。

富士見町は長野県中部にある諏訪郡の町で、東側は山梨県北杜市と接している。標高は下葛木地区の700m付近から八ヶ岳山麓の富士見高原の上部の別荘地の1,400m付近に至り、町の西部から南部にかけての山岳部は入笠山1,955m、釜無山2,117m、白岩岳2,267mに至る。面積は約144k㎡で、およそ7割を森林が占めている。年平均気温は10℃前後、年間降水量は約1,500mmである。

原村は長野県中部にある諏訪郡の村で富士見町の北側に接している。中心部は八ヶ岳西麓の標高900m～1,300mの高原に位置し、頂点は八ヶ岳の阿弥陀岳2,805mに至る。面積は43k㎡で、村土の約40%が森林で、農地が約30%を占めている。西に諏訪湖、そのはるか後方に北アルプス連峰を望む360°の眺望に恵まれた東西に細長く広がる自然環境の豊かな村である。年平均気温が10℃前後、年間降水量は約1,200mmである。

②人口、社会・産業特性等

3市町村を合わせた総人口（平成22年国勢調査）は、約70,000人である[北杜市46,968人（3市町村における構成比67.21%）、富士見町15,338人（同21.95%）、原村7,573人（同10.84%）]。首都圏からも2時間程度と近く、八ヶ岳、南アルプスなど日本を代表する山岳景観と森林・牧野・溪谷・里山など豊かで多彩な自然環境を有する八ヶ岳エリアは、別荘所有者などによる二地域居住（週末居住）に加えて、半定住者や移住者も多い地域で、近年のデータでは転出者数より転入者数の方が3市町村ともわずかではあるが多い。

社会・産業特性としては3市町村とも第3次産業従事者の割合が最も多いが、北杜市が第1次産業16.4%、第2次産業26.2%に比べて第3次産業が57.38%と半数を超え、富士見町は第3次産業が50.6%で第2次産業が36.2%と、第2次産業の割合がやや多くなっている。また、原村は第3次産業が45%と3市町村で最も低く、第1次産業の割合が27.7%と大きい。

就業者数は北杜市23,700人、富士見町7,900人、原村4,300人となっている。

（北杜市）

- ・ 北杜市は山梨県内で最大の水田面積を有する水稻を主作物とする地域ではあるが、転作や耕作者の高齢化により、耕作地の減少傾向が続いている。これに反して第3次産業であるサービス業を中心に増加が続いており、産業のソフト化・サービス化が進んでいる。

（富士見町）

- ・ 第1次産業の就業人口は減少しており、昭和50年と比べるとおよそ60%減の約1,000人となっている。第2次産業は3千人前後で比較的安定している。第3次産業については年々、増加し、昭和50年と比較すると70%増の約4千人となっている。

（原村）

- ・ 第1次産業の就業人口は約1,200人で、構成比は昭和55年の44.3%、平成17年の32.6%から27.7%と減っている。第2次産業1,150人、構成比26.8%、第3次産業は平成17年の1,800人から7%増の1,930人で、構成比も40.3%から45.0%へと変化した。

③歴史、文化特性等

八ヶ岳観光圏域に共通して伝わる伝説に「かつて八ヶ岳は日本一高い山であった。」というものがあるように、このエリアは伝説の時代から一つの地域として八ヶ岳を中心に考えられてきた。

その後八ヶ岳南麓の南斜面には約5,000年前、井戸尻遺跡を中心に縄文文化が栄え、戦国時代には、甲斐の武田信玄が信濃攻略のために八ヶ岳南麓を棒のようにまっすぐ抜ける道「棒道」を作り北信濃の侵攻を模索した道は現在の北杜市、富士見町、原村を貫き現在もその棒道を使用した「棒道ウォーク」が開催されている。

このように現在山梨県、長野県と県域の違いが様々な障害となっているが、この八ヶ岳観光圏域は遠い昔から歴史、文化の特性としては一つの地域として今日まで続いている。

人口、社会・産業特性等

人口・世帯	人口総数 (A)	15歳未満 人口	15～64歳 人口	65歳以上 人口	転入者数	転出者数	昼間人口 (B)	参考 (B-A)	世帯数
	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(世帯)
	2010	2010	2010	2010	2010	2010	2010	2010	2010
北杜市	46,968	5,261	27,054	14,639	1,525	1,311	47,289	321	18,281
比率 (%)	100.0	11.2	57.6	31.2	—	—	—	—	—
富士見町	15,338	1,942	8,730	4,568	564	509	16,623	1,285	5,634
比率 (%)	100.0	12.7	57.3	30.0	—	—	—	—	—
原村	7,573	1,003	4,535	2,035	295	215	6,223	-1,350	2,568
比率 (%)	100.0	13.2	59.9	26.9	—	—	—	—	—

経済基盤	課税対象 所得	納税義務 者数 (所得割)	事業所数	第2次産業 事業所数	第3次産業 事業所数	従業者数	第2次産業 従業者数	第3次産業 従業者数
	(百万円)	(人)	(事業所)	(事業所)	(事業所)	(人)	(人)	(人)
	2010	2010	2009	2009	2009	2009	2009	2009
北杜市	52,321	19,238	2,920	634	2,231	21,574	6,329	14,654
比率 (%)	—	—	100.0	21.7	76.4	100.0	29.3	67.9
富士見町	17,386	6,719	777	261	504	7,972	4,200	3,645
比率 (%)	—	—	100.0	33.6	64.9	100.0	52.7	45.7
原村	8,781	3,142	476	148	322	2,414	746	1,631
比率 (%)	—	—	100.0	31.1	67.6	100.0	30.9	67.6

	農業産出額	製造品 出荷額等	製造業 従業者数	商業年間 商品販売額	商業 事業所数	商業 従業者数
		C3401 (百万円)	C3404 (人)	C3501 (百万円)	C3502 (事業所)	C3503 (人)
	2006	2009	2009	2007	2007	2007
北杜市	7,340	177,938	4,863	40,902	621	2,722
富士見町	4,920	67,337	3,813	19,965	136	873
原村	4,190	6,261	280	9,189	73	392

行政基盤	財政力 指数	実質収支 比率	実質公債費 比率	歳入 決算総額	歳出 決算総額	地方税
	(市町村財政)	(市町村財政)	(市町村財政)	(市町村財政)	(市町村財政)	(市町村財政)
	(—)	(%)	(%)	(百万円)	(百万円)	(百万円)
	2009	2009	2009	2009	2009	2009
北杜市	0.48	4.5	18.5	31,635	30,400	6,901
富士見町	0.60	5.1	11.1	8,177	7,914	2,503
原村	0.40	14.2	12.8	4,528	4,129	881

労働	労働力人口	就業者数	完全 失業者数	第1次産業 就業者数	第2次産業 就業者数	第3次産業 就業者数	雇用者数	役員数
	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)
	2010	2010	2010	2010	2010	2010	2010	2010
北杜市	25,012	23,718	1,294	3,859	6,157	13,480	15,730	1,114
比率 (%)	100.0	94.8	5.2	16.3	26.0	56.8	66.3	4.7
富士見町	8,279	7,914	365	1,038	2,825	3,950	5,799	398
比率 (%)	100.0	95.6	4.4	13.3	36.2	50.6	73.3	5.0
原村	4,457	4,289	168	1,190	1,151	1,931	2,464	170
比率 (%)	100.0	96.2	3.8	27.9	26.9	45.2	57.4	4.0

	雇人の ある 業主数	雇人の ない 業主数	家族 従業者数	自市区町村 で従業して いる 就業者数	他市区町村 への 通勤者数	従業地 による 就業者数	他市区町村 からの 通勤者数	小売店数 (飲食店を 除く)	飲食店数
	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	2009	2009
	2010	2010	2010	2010	2010	2010	2010	2009	2009
北杜市	627	4,016	2,114	18,133	5,585	24,204	5,872	561	319
比率 (%)	2.6	16.9	8.9	76.5	23.5	—	—	—	—
富士見町	173	892	541	5,034	2,818	9,300	4,122	117	51
比率 (%)	2.2	11.3	6.8	63.6	35.6	—	—	—	—
原村	166	726	739	2,299	1,978	3,228	893	57	28
比率 (%)	3.9	16.9	17.2	53.6	46.1	—	—	—	—

※統計で見る市町村の姿2012

④総合計画等における観光の位置づけ

計画対象地域の各市町村の総合計画等においては、観光や交流事業が次のように位置づけられている。

a. 北杜市

『第1次北杜市総合計画』の「基本構想（平成19～28年度）」において、北杜市づくりの基本コンセプト「人と自然と文化が躍動する環境創造都市」にもとづく将来都市像の「水と緑と太陽を活かした交流産業都市」に観光が位置づけられ、「多様な農業集積と観光拠点との連携を図り、高付加価値の商工業、サービス業等が立地する交流産業都市を形成します。」「地域における食の「北杜市ブランド」化を図ります。」と記されている。

そして、「施策の大綱（8つの杜づくり）」8項目の中の「品格の高い感動の杜づくり」に観光施策が位置づけられ、「1）特色在る地域資源の活用、2）ネットワーク型観光地づくりの推進、3）受入体制の充実」の3項目があげられている。

具体的な内容及び「基本計画（平成24～28年度）」の記載事項は以下の通りである。

基本構想

○品格の高い感動の杜づくり

地域資源を活用した多様な観光の展開

【現状と課題】

本市は、清らかで豊かな水資源や、山岳などの美しい自然景観、リゾート高原地帯など恵まれた自然環境を有しており、また、古くからある温泉地や歴史的な町並みが残り、日本三大桜の一つで天然記念物の山高神代桜をはじめ、数多くの文化財や縄文時代などの古代の遺跡などが存在しています。

このような多くの観光資源を有する本市は、観光客を迎えるため、観光パンフレットの作成、観光PRキャンペーンの実施、観光案内拠点の整備、ホームページでの情報発信など、様々な取組を行ってきました。

しかし、資源が十分活用されていない部分もあり、各地に点在する多くの観光資源を結びつけて魅力ある観光商品として売り込みを行う必要があります。

このためには、観光案内所や大型観光施設、それぞれの地域で独自の活動を行っている観光協会や観光事業者が連携し、宿泊を促すような受入体制やサービスの提供と、豊かな資源を効果的に活用した旅行商品開発、情報発信等が必要となっています。

近年、本市の観光客の滞在傾向は、昨今の経済状況を反映し、日帰り型が多い状況にあります。

これまで、本市では、来訪者が市内に長期滞在し、癒しの空間の中で心身をリフレッシュしてもらうため、平成19年6月に「長期滞在型リゾートの杜」宣言を行い、受入体制の整備をこれまで行ってきましたが、これからは、日帰り型、長期滞在型ともに魅力ある

旅行商品開発や取組を進めていく必要があります。

さらに、平成 20 年 4 月には、子連れ旅行に最適な観光地を全国から選定する、「ベビーズヴァカスタウン」の第一号として本市が選定され、親子が安心して楽しめる観光地づくりを進めています。

また、平成 22 年 5 月には、本市と長野県富士見町、原村の 3 市町村をエリアとした「八ヶ岳観光圏」が国の認定を受け、県を跨いだ広域連携による観光振興がこれからの重要な課題となっています。

こうした観光振興の取組の多様化の中で、本市への更なる観光客の誘致を推進していく必要があります。

【施策の方向・内容】

1) 特色ある観光資源の活用

自然、歴史、文化、農業体験など、本市の特色ある資源を活用した観光地づくりを推進します。

2) ネットワーク型観光地づくりの推進

市内の各観光エリアや地域の連携を図り、日帰り型、長期滞在型ともに魅力ある観光地づくりを推進します。

さらに、八ヶ岳観光圏内の結束を深め、観光圏を生かした観光商品の開発を行います。

3) 受け入れ体制の充実

観光、交流拠点など受け入れ体制の整備を図るとともに、もてなしの心を持つ観光地づくりを推進します。

また、リトリートの杜、ベビーズヴァカスタウン等、本市の観光地で癒しと安心を体感できるプログラムや受入体制を整備します。

施策の体系

1. 観光の振興

1) 特色ある観光資源の活用

① 自然資源等を生かす魅力づくり

② イベント開催の推進

2) ネットワーク型観光地づくりの推進

① 道路・交通環境の充実

② 広域観光圏の整備

3) 受入体制の充実

① 観光拠点の整備とおもてなしの観光地づくり

② 長期滞在型観光の体制づくり

b. 富士見町

『第4次富士見町総合計画』では、「基本構想（平成19～26年度）」の6つの目標の中の「いきいきとした活力のある産業のまちをめざして」に観光の振興が政策として位置づけられ、「町民のすべてがおもてなしの心を持った接客と、花と心の里山構想を通して観光の振興を図るとともに、各種イベントや誘客活動により多くの観光客を迎え、本町の活性化を進めます。」と記されている。

「後期基本計画（平成23～26年度）」では、最重点課題を克服するために6項目の「リーディングプロジェクト」を掲げ、3項目目に「観光の充実」が挙げられている。

具体的な内容は以下のとおりである。

リーディングプロジェクト3「観光の充実」

現状と課題
富士見町の主要観光地である富士見高原・パノラマの両リゾートでは、観光基本計画（H17策定）に掲げた「ふじみ花と心の里山」構想に沿って、ゆり園や山野草など花をテーマにした事業展開を図ってきた。しかし、この5年で宿泊客数が20%減少するなど、入込客増につながっていない現状である。原稿の取組みのレベルアップと広域連携やインバウンドなどの新たな取り組みによって、入込客増を図っていく必要がある。
計画目標
平成26年までに1,000,000人
目標達成へ向けた方針
①八ヶ岳観光圏を利用した広域観光PRの推進
②富士見高原・パノラマの両リゾートを柱とした観光資源開発
③地域資源を活用した第3のシナリオの開発 （富士見町内の歴史文化を生かした観光コース設定）
④中国を中心としたインバウンド受入整備

c. 原村

『第4次原村総合計画（平成18年～27年度）』では、「むらづくりの基本理念」の4つの項目の3つ目の『「産業連携と交流」によるむらづくり』に観光が位置づけられ、「今後は多面的な機能を持つ農業を主軸にしながら、観光や森林、工業、サービス業などさまざまな産業・資源が関連・連携を深めながら観光農園や特産品加工など、住民主体の原村らしい地域産業のネットワーク形成を図り、経済活動が村内で循環して地域力を高めていく新しい「しくみ」づくりを推進する必要があります。」と記されている。

また、原村の将来像を「人も地域も輝く緑豊かな原村」とし、4つの村づくりの目標を掲げ、その4番目の「環境と共生した活力ある村づくり」の中に観光の施策が位置づけられ、「観光を中心にした、各産業間の連携と「原村ブランド」の創出」、「原村ブランド」を活かした観光の振興」の2項目が掲げられている。

具体的な内容は、以下の通りである。

後期基本計画の基本方針

○観光を中心にした各産業間の連携と「原村ブランド」の創出

<p>1. 住民参画による体験型観光の育成</p> <p>○地域の人々とのふれあいなどが実感できるよう、農家やクラフトマン、宿泊施設などとの連携を促進します。</p> <p>具体的な施策</p> <p>① 工房や農家などの体験施設のネットワーク化と、体験メニューの提案</p> <ul style="list-style-type: none">・ハヶ岳自然文化園で実施している手作りネットを核に拡大します。 <p>② ペンションなどの宿泊施設や工房、農家等の受け入れのコーディネート体制の創設</p> <ul style="list-style-type: none">・観光連盟や商工会、農業者団体と連携し体験コースの受け入れ体制を整備します。 <p>③ モデルコースの提案と宣伝活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none">・遊歩道や体験施設等を連携させたコースを提案し、観光パンフレット、ホームページ、観光イベント等を活用してPRを実施します。 <p>④ 地域を挙げてのおもてなしの心の醸成</p> <ul style="list-style-type: none">・広報紙、有線放送等による広報活動を実施します。・案内人、ガイドなどの人材発掘と育成を行います。 <p>⑤ 地域住民等ボランティアによる環境整備維持活動の促進</p> <ul style="list-style-type: none">・広報紙、有線放送等による活動への参加を促します。
<p>2. 農業との連携による活性化</p> <p>○自然や地域産業との連携を図りながら、体験型・滞在型の観光振興を図ります。</p> <p>具体的な施策</p> <p>① 観光農園（ペンションガルテン）を整備し、農業との連携による滞在型観光の振興</p> <ul style="list-style-type: none">・都市住民が宿泊しながら農業体験できるシステムを構築します。 <p>② 農作物収穫体験などによる新たな観光魅力の付加</p> <ul style="list-style-type: none">・原村の美味しい野菜を観光資源としてPRし、体験メニューとして楽しむシステムを構築します。

○原村ブランドを活かした観光の振興

<p>1. 観光拠点の再生とネットワークの整備</p> <p>○樅の木荘の今後のあり方や、ペンションなどの宿泊施設の整備について検討します。また、通過点とならないよう観光客に対して情報発信をしていくために、エコーライン近くに観光案内所を移転し効果的な</p>

情報発信を行います。

○魅力的な観光づくりを継続していくために、八ヶ岳自然文化園等を中心とした観光施設や遊歩道の整備を進めます。

具体的な施策

- ① 情報ネットワークの構築による総合案内機能の整備
 - ・関係機関と連携し観光情報の一元化を図り、情報発信の強化を促進します。
- ② ホームページなどによる観光情報の発信
 - ・観光イベントやモデルコースなどの提案を、適切なタイミングで発信します。
- ③ 観光案内所の移転・整備
 - ・観光案内所をエコーライン沿線へ移転し、情報発信力を強化します。

2. 星・音楽をテーマとした観光ブランド

○情報提供を積極的に行うとともに、単発的なイベントで終わらせるのではなく宿泊や他の施設・体験に誘導することにより滞留時間を延ばすような取り組みを進めます。

具体的な施策

- ① ホームページや観光キャンペーン等を活用した PR 活動の推進
 - ・八ヶ岳自然文化園等で開催されるコンサートや観望会等星に関するイベントを PR します。
- ② 宿泊や体験・観光施設を組み合わせたモデルコースの提案・PR
 - ・改修された野外音楽堂での音楽活動や「星空の映画祭」などを活用します。
- ③ プラネタリウムの整備や番組の更新
 - ・老朽化してきたプラネタリウムの設備を新システムに更新し、新番組を導入します。

(2) 地域資源の現況と観光特性

八ヶ岳エリアは四季の移ろい鮮やかな地域で、その広大なエリアには日本人のみならず、外国人をも魅了する多くの自然資源や人文資源、観光レクリエーション施設が存在し、また安心・安全で、快適な宿泊施設が数多く立地している。

各交流地区別の特徴、また、観光資源・地域資源、年中行事・イベント、観光客数及び宿泊客数、宿泊収容力の概要は、以下の通りである。

① 各交流地区別の特徴

●北杜市・八ヶ岳横断歩道交流地区

・八ヶ岳中信高原国定公園内にある八ヶ岳横断歩道を中心としたエリア。夏のトレッキング、冬のスノーシューをはじめ、八ヶ岳登山口の起点となる箇所もあり、足下の自然と、南アルプス、富士山などの景観が楽しめる。

●北杜市・金生遺跡・谷戸城址交流地区

・金生遺跡は縄文時代の集落跡と中世の集落跡が複合した遺跡であり、谷戸城は平安時代末期の甲斐源氏の祖、新羅三郎義光の孫黒源太清光の居城址などがある。また近年には金田一春彦記念図書館が設置される等、この地は縄文時代から現代まで人々の生活が営まれてきた場所である。

●北杜市・オオムラサキ交流地区

・日本の国蝶である「オオムラサキ」は八ヶ岳観光圏内ではいたるところで見ることができるが特に多く生息しているのがオオムラサキセンター周辺である。オオムラサキが生息できる澄んだ空気、清らかな水、燦々と輝く太陽の恵みを感じることができる。また近くには、燦々と輝く太陽光を利用した北杜サイト太陽光発電所がある。

●北杜市・増富ラジウム温泉郷交流地区

・増富ラジウム温泉郷は、武田信玄が金山開発中に発見した隠し湯であるという伝承をもち、ラジウム含有量世界一ともいわれる効能の高さから湯治場として栄えた温泉である。またこのエリアは紅葉の名所としても有名である。

●三代校舎ふれあいの里交流地区

・明治、大正、昭和それぞれの時代の校舎が再築され、農業・食・歴史を中心に都市との交流を行っている。

●北杜市・ひまわり畑とフラワーセンター交流地区

・日照時間が日本有数のこのエリアには、約60万本のひまわり畑と県立フラワーセンター「ハイジの村」があり、八ヶ岳観光圏東側の花のエリアである。

●北杜市・神代桜とこめの郷交流地区

・樹齢約2,000年、日本最古といわれる「山高神代桜」があるエリア。日本三大桜の一つ

として知名度が高く、八ヶ岳観光圏で一番先に咲くのもこの桜である。

また近くには約 750m の桜のトンネルが楽しめる真原桜並木がある。

この交流地区はおいしいお米の産地として有名であり、平成 24 年度も特 A にランク付けされた米を生産している。

●北杜市・歴史と名水の里交流地区

- ・甲州街道の宿場として栄えた台ヶ原宿の面影を残す一角があり、現在は骨董市などで賑わいを見せる地区である。
- ・甲斐駒ヶ岳を代表とする南アルプスの急峻な山岳と尾白川渓谷をはじめとする美しい景観に恵まれている。甲斐駒ヶ岳の登山口にあるこのエリアは尾白川に沿って渓谷散策を楽しみ、名水公園をぐるぐるとキャンプを楽しむことができる。
- ・甲斐駒ヶ岳を代表とする南アルプスからの清らかな名水はミネラルウォーター生産日本一を誇る。またその名水を使用しウイスキー蒸留所、ジュース工場や洋菓子工場が集積しているエリアである。

●富士見町・入笠山交流地区

- ・花の百名山 入笠山は、その名にふさわしく、数多くの山野草が咲き誇る。特に釜無ホテイアツモリソウと 100 万本の日本すずらんは本州随一の自然として知られている。夏はトレッキングやマウンテンバイク、冬はスキーなどのアクティビティも充実している。

●富士見町・第 3 のシナリオ交流地区

- ・富士見市街地を点在する、歴史的文化的な観光資源が多く、地域住民と交流できる地区。四季折々の花や自然が満喫でき、町名のとおり、富士山をはじめ、八ヶ岳や南アルプス、北アルプスなど山々の眺望見恵まれている。

●原村・8つの頂を望む高原交流地区

- ・東に八ヶ岳、北は蓼科山、西に諏訪湖が控え、はるか遠くには北アルプスを望む。八ヶ岳の 8 つの雄大な頂をすべて望むことができる。高齢者就労率が約 55% と高く、農・商・工業を連携させ、原村ブランドの創出を図っている。

② 観光資源・地域資源

計画対象地域は豊かな観光資源・地域資源に恵まれているが、全国的な知名度を有する資源は少ない。(財)日本交通公社による評価において最高位の「特 A 級」*とされる観光資源はなく、全国的な誘致力を持ち、観光重点地域の原動力として重要な役割を持つ資源は甲斐駒ヶ岳と八ヶ岳だけである。地方のイメージ構成の貴重となりうる資源も、鋸山、瑞牆山、金峰山、清里高原だけとなっている。

しかしながら、八ヶ岳の湧水や南アルプスの清流のような個性的な資源に加え、多数の美術館や博物館、花関連の施設、テーマパーク、産業観光施設(工場等)、道の駅、農産物等の直売所、牧場など様々な施設があり、農産物その他の素材も豊富で、それらの地域資源や

自然資源の組合せや商品化によって地域の魅力が形成されている。

③ 年中行事・イベント

計画対象地域においてはオフシーズンとなる冬期には数が減るものの、年中行事やイベントがほぼ年間を通じて数多く開催されている。特に北杜市の清里エリアでの開催が多い。テーマは様々であるが、芸術や音楽に関するもの、農や食に関するもの、花に関するもの、スポーツに関するものなどが多い。

収穫祭のように類似のイベントが多く地域で開催されることについては、日程の調整も含め、連携により効果的なイベントの開催、運営を図っていくことが望まれる。

④ 宿泊収容力

対象地域にはホテル、旅館、民宿、ペンション、公的施設など多様な宿泊施設が立地している。

北杜市では清里のある高根地区が最も多く、大泉地区、小淵沢地区の小海線沿線に多くの宿泊施設が集積している。その他、増富温泉のある須玉地区、南部の白州地区、武川地区に若干の集積がある他、明野に市営の宿泊施設がある。

富士見町では富士見高原に宿泊施設が集っており、ペンションが多く、ペンションビレッジが形成されている。他にホテルや、スポーツ施設を備えた合宿向きの宿泊施設がある。その他、パノラマリゾート周辺にペンションやユースホステル等数軒の宿泊施設と富士見駅近くに旅館がある。

原村では、中央高原のペンションビレッジにペンションが集積している他、旅館、プチホテル、村営宿泊施設などがある。

観光資源の評価

種別	ランク	名称
山岳	A	甲斐駒ヶ岳
	A	八ヶ岳
	B	鋸岳
	B	鳳凰三山
	B	金峯山
	B	瑞牆山
	C	小川山
	C	茅ヶ岳
	C	釜無山
	C	入笠山
高原	B	清里高原
	C	入笠高原
河川	C	釜無川
植物	C	美し森の大ヤマツツジ
	C	山高神代ザクラ
	C	根古屋神社の大ケヤキ

資料：(財)日本交通公社、資源台帳

* 観光資源の分類と評価基準

資源分類		評価		
自然資源	人文資源	ランク	基準・内容	代表資源名
山岳 高原 原野 湿原 湖沼 峡谷 滝 河川 海岸 岬島 岩石・洞窟 動物 植物 自然現象	史跡 社寺 城跡・城郭 庭園・公園 歴史景観 地域景観 年中行事 建造物 動植物園・水族館 博物館・美術館	特A級	わが国を代表する資源で、かつ世界にも誇示しうるもの。わが国のイメージ構成の基調となりうるもの。	富士山 摩周湖 法隆寺 姫路城 祇園祭
		A級	特A級に準じ、その誘致力は全国的で、観光重点地域の原動力として重要な役割をもつもの。	芦ノ湖 天橋立 清水寺 高山のまちなみ
		B級	地方スケールの誘致力をもち、地方のイメージ構成の基調となりうるもの。	筑波山 浜名湖 高山の朝市
		C級	主として、県民および周辺地域住民の観光利用に供するもの。	身延山 石神井池 広島城跡
		以下D級ー	地域住民の利用。	

計画対象地域におけるその他の観光資源

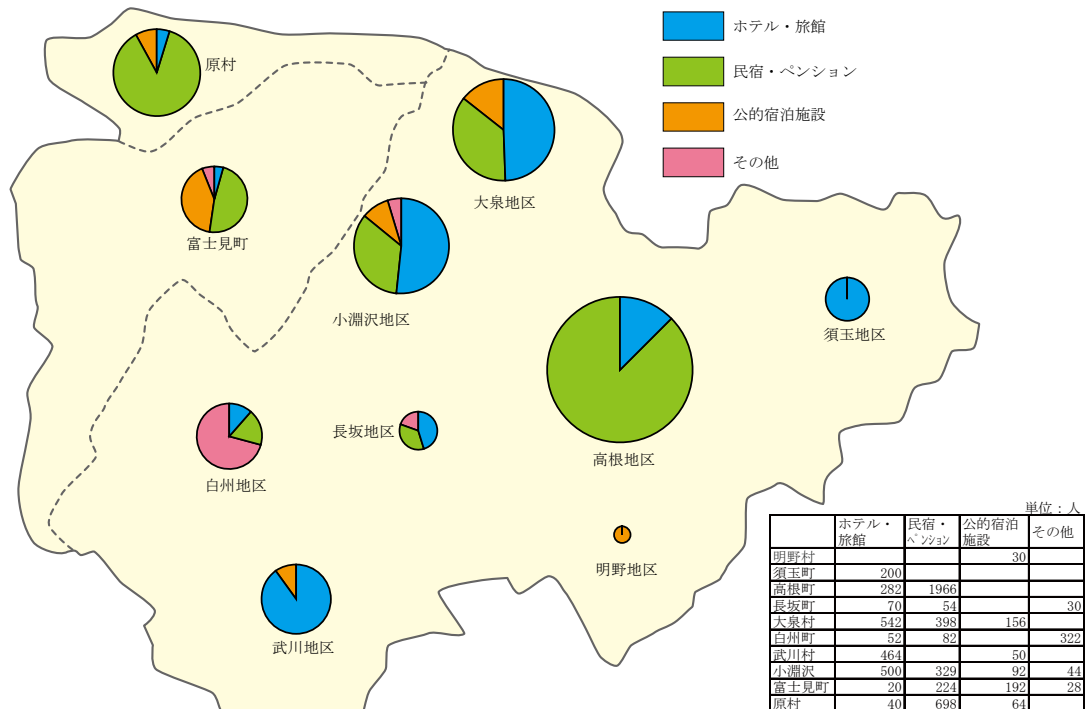
北杜市	明野ひまわり畑	北杜市	清春芸術村	
	ハイジの村(山梨県フラワーセンター)		オオムラサキセンター	
	みずがき山自然公園		尾白川溪谷 (日本名水百選)	
	津金の三代校舎		甲州街道台ヶ原宿	
	増富ラジュウム温泉峡		名水公園べるが	
	金峰山・みずがき山源流(日本名水百)		サントリー白州蒸留所・水工場	
	増富ラジュウム温泉郷		石空川溪谷・精進ヶ滝	
	須玉美術館		梨北米	
	高根町クラインガルテン		富士見町	高原のミュージアム
	藪内正幸美術館		入笠湿原	
	安達原玄 仏画美術館		富士見高原ゆりの里・スノーリゾート	
	通仙峡・本谷川溪谷		井戸尻考古館	
	八ヶ岳高原大橋		富士見町歴史民俗資料館	
	東沢大橋		富士見パノラマリゾート	
	川俣川溪谷・吐竜の滝		関東の富士見百景	
	美し森		おっこと亭	
	キープ協会・清泉寮		創造の森	
	県立まきば公園		ペンションビレッジオープンガーデン	
	天女山		鹿の湯	
	萌木の村		原村	八ヶ岳美術館
	サンメドウズ清里スキー場		八ヶ岳自然文化園	
	平山郁夫シルクロード美術館		八ヶ岳温泉ふれあいセンターもみの湯	
	三分一湧水(日本名水百選)		八ヶ岳中央農業実践大学校	
	信玄棒道		小さな絵本美術館	
	谷戸城趾・金生遺跡		たてしな自由農園	
	金田一春彦記念図書館		道の駅	道の駅 はくしゅう
大イトザクラ	道の駅	道の駅 こぶちざわ		
大滝湧水(日本名水百選)	道の駅	道の駅 南きよさと		
J R小海線ハイブリット車両	道の駅	道の駅 信州葛木宿		
八ヶ岳リゾートアウトレット				

資料：各市町村

年中行事・イベントのスケジュール

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
北杜市	ハケ岳天空博覧会	ハケ岳オーロラ伝説 清里ミュージアム	山梨県雪合戦大会	山高神代桜祭り 増富ラジウム烟火 清里開拓の道ウォーク	(5日) 長次郎のぼり祭り 増富ラジウム烟火 清里開拓の道ウォーク 横川・須玉川ます釣	つつじ祭り		サンアワフェス 増富ラジウム温泉郷祭り ハケ岳新能 清里フィールドパレエ ハケ岳ホッケー 北杜ふるさと祭り	須玉甲斐源氏祭り	グランアワードハケ岳 フェスタまきば ホールのフェスティバル ハケ岳カクティフェア ハケ岳原宿市 ハケ岳ロードレース	流尾大根祭り ハケ岳新そば祭り 名水祭り	ハケ岳天空博覧会
富士見町	御来光登山		富士見の日記念イベント	桜めぐり グリーンフェア	ADVENTUREinFujimi 入笠山開山 LOUIS GARNEAU GREEN CUP		観蓮会・ナイトコトウ シマノ・ハイカース フェスティバル OKKOUH祭り				富士見高原名勝探訪駅伝 富士見高原リゾート新そば祭り 道の駅信州高木宿新そば祭 縄文収穫祭	
原村				ぼろ機織即売会		ハケ岳開山祭 ハケ岳ワンウォーク		ハケ岳自然文化園クラフト市 サマー・ホリデーin原村 星祭り 原村よいしよ祭り 信州さきおり展 ハケ岳・里と歩くナイトウォーク		ハケ岳自然文化園クラフト市 ハケ岳まるごと収穫祭 ハケ岳ワンウォーク		

宿泊収容力



資料：宿泊表（2009年8月、(株)旅行出版社）
 但し、小淵沢地区の民宿については「宿泊表」で「小淵沢民宿組合」と一括されていたため、小淵沢高原民宿組合HPより抜粋

(3) 観光地づくりを達成するための課題

既存文献調査や市町村や観光事業者等へのヒアリング調査から、当観光圏における観光振興上の課題を市町村別、地域共通別に整理すると以下ようになる。

①市町村別の課題

a. 北杜市

【観光資源・地域資源について】

- ・ 自然、歴史・文化、産業、農産物等多様な観光資源に恵まれており、滞在型観光地としての潜在性も優れているが、それらに対する意識や認知度の低さもあり、資源が有効に活用されず、魅力を十分に発揮できていないので、それらを活かす環境づくりを進めていく必要がある。
- ・ ハヶ岳南麓の穏やかで豊かな自然や里山・森林、牧場・農園等の環境や景観を活かした体験活動、桜やその他の花、美術館・博物館、信玄公ゆかりの歴史資源、農産物等の特徴ある地域資源を活かす施策により、地域のブランド化を図る必要がある。
- ・ 日本有数の山岳を初めとする優れた自然景観を活かすための登山道や遊歩道、ビューポイントの整備、利便性を高めるトイレや駐車場の整備などを進める必要がある。

【宿泊施設について】

- ・ グリーンツーリズムやエコツーリズム等と結びついた宿泊体験プログラムや休養・リフレッシュのための滞在プログラムなど、地域資源の特徴を活かした宿泊滞在プランを充実させ、宿泊客を増加させる必要がある。

【交通について】

- ・ 北杜市は面積が広大で観光ポイントが分散・点在しているので、周遊性を向上させるため、農道や林道の観光利用も合わせた道路のネットワークの整備が必要である。
- ・ JRの列車との接続、バス路線間の接続の利便性の向上も含め、2次交通の充実が必要である。
- ・ 2次交通の整備と合わせた遊歩道や登山道の整備による総合的な交通ネットワークの整備が必要である。

【観光人材育成について】

- ・ 観光関連の組織や事業者の関係者はもちろんのこと、観光客を迎える地域の住民も含めて意識改革を図り、訪れた人を迎える“もてなしの心”を育成していく必要がある。
- ・ 地域の魅力を伝え、滞在の楽しみのお手伝いをする体験プログラムのインストラクターや観光ガイドを養成する必要がある。

【情報提供・発信について】

- ・ 主要な駅や道の駅、その他の観光案内所や情報センターを充実させ、観光客のニー

ズに応じた的確な情報提供を行う必要がある。

- ・ 北杜市の観光の総合的なホームページを充実させるとともに、観光関連施設、宿泊施設等との相互リンクによる情報提供・発信を進める必要がある。

【外国人観光客の受入れについて】

- ・ 外国人観光客のニーズを的確に捉え、受入体制や情報提供体制を充実させていく必要がある。

b. 富士見町

【観光資源・地域資源について】

- ・ 冬のスキー客が減少してきており、スキー場の活性化が大きな課題である。
- ・ 八ヶ岳、入笠山、里山等の自然環境が重要な資源であり、保全を図りつつ、活用していく必要がある。
- ・ パノラマリゾートと富士見高原リゾートの 2 大拠点を最大限活用するとともに、新たに第 3 のシナリオを策定し、地域の資源を活かし、観光地としての魅力アップとアピールの強化を図っていく必要がある。
- ・ 創造の森等の資源の利用のしやすさの向上、棒道等の資源の整備など観光資源の積極的な活用を図る必要がある。
- ・ 鉢巻道路の遊歩道やビューポイントの整備が望まれる。

【宿泊施設について】

- ・ ペンションは、世代交代、観光客のニーズの変化等の中で数が減少し、ペンションの活性化は大きな課題である。

【交通について】

- ・ 首都圏からのアクセスを向上させるため、小淵沢駅に停車する特急の増便と接続するバス交通の整備が望まれる。
- ・ 交通ターミナルからのアクセス及び観光ポイント間の移動のための 2 次交通を整備する必要がある。

【観光人材育成について】

- ・ 観光ガイドや体験のインストラクターを養成していく必要がある。

【情報提供・発信について】

- ・ 魅力づくりとあわせて情報発信を強化し、観光地としての知名度を高める必要がある。

【その他】

- ・ 観光事業者、観光関係組織間の連携とともに他産業の関係者との連携を進めていく必要がある。

c. 原村

【観光資源・地域資源について】

- ・ 八ヶ岳の八つの頂が見える景観の魅力と自然環境、約 2,000 名の収容力を有する落ち着いた雰囲気のパension等の宿泊施設を活かし、滞在型の観光を進めていく必要がある。
- ・ 滞在型観光を推進するため、農業関連の資源や森林資源等新たな資源の活用により体験活動等の新たな魅力づくりが必要である。
- ・ 村内の既存の観光施設の連携を図るとともに、八ヶ岳高原ミュージアム・リングや八ヶ岳山麓スーパートレイル等の取組みの一層の強化も含め、八ヶ岳をめぐる地域の観光施設等との有機的な連携を進めていく必要がある。
- ・ 星・音楽をテーマとした原村ブランドを一層強化していく必要がある。

【宿泊施設について】

- ・ 観光施設やパension等の宿泊施設は、現在の魅力や特徴を活かしつつ、観光客のニーズの変化に対応して機能の再生を進める必要がある。

【交通について】

- ・ 新宿からの直行バスが平成 17 年度に廃止され、高速バスの中央道原バス停からはタクシー利用しかなく、高速バスによるアクセスの利便性がよくない。
- ・ 村内の移動の利便性の向上とともに、富士見町、さらには北杜市の観光との連携を図るための 2 次交通の充実が課題である。

【観光人材育成について】

- ・ 滞在型観光を推進するため、受入れを担う農業家やクラフトマン、あるいはイベントに関わる住民等を育成し、連携していく必要がある。
- ・ 体験プログラムのコーディネーター、オペレーター等の育成が必要である。

【観光情報提供・発信体制について】

- ・ 主な観光案内箇所は、第 1 パensionビレッジ内にある原村観光協会が運営する観光案内所に限られるため、来訪した観光客に対する情報提供体制を充実させる必要がある。
- ・ 平成 22 年度からの観光圏事業において山梨県北杜市との連携は進んでいるが、山梨県側の観光情報が少なく、観光客の周遊には不便となっている。連携を図り一体的な情報提供・発信を進める必要がある。
- ・ 村内の各観光施設や、他産業との連携を進めるため、それらを結んだ情報のネットワークを構築する必要がある。
- ・ 原村ホームページの充実等、観光客にわかりやすい情報提供・発信を進める必要がある。

②地域共通の課題

【観光まちづくりに取り組むスタンスについて】

- ・ 圏域が山梨県と長野県にまたがっているため、県境で観光情報の断絶やバス路線の断絶など観光客の周遊行動にとってのマイナス要因が大なり小なり多々存在するので、それらを取り払う取組みを推進する必要がある。
- ・ 北杜市と富士見町や原村とでは自治体の規模がかなり違い、観光入込み客数にも大きな差があるが、それらの自治体の単位は観光客にとっては意味がなく、個々の観光地の魅力と地域全体での魅力が重要なので、個々の観光地のレベルアップと相互の連携に努めることが肝要である。
- ・ 圏域内には清里という比較的知名度が高く、多くの観光客を集めている観光地があるが、宿泊滞在の促進等、今後の発展を目指すには八ヶ岳（あるいは八ヶ岳南麓）地域としての魅力と知名度のさらなるアップを図っていく必要がある。
- ・ 八ヶ岳南麓に広がる豊かな自然環境と美しい景観がこの圏域のかけがえのない財産であり、そこに育まれた歴史、文化や産業等も含め、それらと調和し、それらを活かした観光地づくりを進めることが肝要である。
- ・ 優れた景観が保全され、魅力ある地域が形成されることがこの圏域の観光の振興には不可欠であり、地域住民による魅力あるまちづくりと一体となった観光振興を進める必要がある。また、趣味や外食、ショッピング、その他の余暇活動の場として住民が観光関連の施設を利用したり、生き甲斐や楽しみの場として観光客との交流に参加したり、あるいは住民が自ら観光事業に参画したりと、住民にとってもプラスとなる様々な機会を提供するような観光まちづくりを推進することが肝要である。

【観光資源・地域資源について】

- ・ 多様な観光資源や多数の観光施設があり、体験メニューやイベントも多いが、それらの魅力が十分に発揮されていなかったり、有機的な連携が図られていなかったりして、圏域の特徴的な魅力になりきれていない。
- ・ 豊かな自然を有する滞在型観光地、文化性の高い文化的活動の盛んな観光地、多様な体験活動が楽しめる観光地など、八ヶ岳南麓のエリアとしてのブランドイメージづくりを進めるとともに、八ヶ岳ブランドの商品の育成や開発に取り組む必要がある。
- ・ 八ヶ岳、南アルプス、富士山、瑞牆山等の山岳の眺めはこの圏域の重要なアイデンティティの一つであるが、その眺めを活かし、楽しめるビューポイントの整備や情報提供が不十分である。
- ・ 登山道や遊歩道等の優れた自然を楽しむための施設や案内板、トイレや駐車場等の利便施設が十分に整っていない。
- ・ 北杜市明野町の国の重要文化財の八代家住宅のある標高の低いエリアから原村中央高原や清里などの高原エリアの間には約 1,000mの標高差があり、桜やその他の花、紅葉の時期や農産物の収穫時期などの期間が長いので、そのことをこの圏域の特徴としてアピールするような観光の推進が必要である。

- ・ グリーンツーリズムやエコツーリズムには一部で受入れがなされているが、この圏域の自然環境や田園・農村環境からすると十分に対応できていないため、圏域の特徴としてのアピールに結びついていない。
- ・ 観光圏のシンボルとなるような着地型旅行商品や滞在プログラムの開発が遅れている。
- ・ 冬期のオフシーズンにおける誘客策を推進する。
- ・ 廃屋や休業施設等、観光地のイメージを損なう建造物が目につくところがある。

【交通について】

- ・ 鉄道のアクセスはJR中央本線の特急列車で、停車駅は韮崎、小淵沢、富士見、茅野の各駅であるが、茅野駅以外は、運転間隔が2時間程度以上あく不便な時間帯もある。
- ・ 駅からの接続は、増富方面へは韮崎駅からの「茅ヶ岳・みずがき田園バス」、国道20号方面へは韮崎駅と武川町にある「山高神代桜～フレンドパークむかわ」を結ぶ形の「清流と甲斐駒ヶ岳周遊バス」、甲斐大泉方面へは小淵沢駅から「八ヶ岳高原リゾートバス」、また清里エリアは清里駅・甲斐大泉駅を通る「清里ピクニックバス」、富士見町、原村方面へは小淵沢駅から「鉢巻周遊バス」が運行されているが、運行本数が十分とはいえず、路線によっては平日の運休便や冬期の運休があるなど、アクセス交通の利便性は十分とはいえない状況にある。
- ・ 自動車利用は農道等も含めた圏域内の道路網の整備が進みつつあり、中央自動車道等から各エリアへのアクセス、圏域内の周遊は比較的便利になりつつあるが、高速バス利用の場合はバス停からの接続交通が不十分である。
- ・ 観光圏のエリア内を周遊するための2次交通については、一部の区間は前記のバスを利用できるが、全体としては周遊には適さない状況にある。
- ・ 観光圏内の2次交通の整備と、観光フリーパス等の利用しやすいチケットの導入については検討課題である。

【情報提供について】

- ・ 圏域が山梨県と長野県にまたがるため、その間での情報の共有がほとんど行われていないので、圏域内での情報の共有化を進めて、より情報提供をしていく必要がある。
- ・ 現在立ち上がっているウェブサイトの情報は観光客へのアピール（つかみ）、見やすさ、利用しやすさ等を考慮した構成となっているが、より利用者のニーズに合わせた改良を重ねていく。
- ・ 観光パンフレットは八ヶ岳観光圏ならではの1000mの標高差の魅力を立体軸及び時間軸を交え、手にした人が八ヶ岳に訪れたいようなマップを作成する必要がある。またプロモーションに使用するもの、観光客の目的、ファミリー向けやカップ

ル向け等の利用者に応じた内容のものを作成する必要がある。

- ・ 花や紅葉の時期、旬の味覚の時期、祭やイベントの時期等を整理した圏域の観光カレンダーを作成し、花や紅葉等をテーマとした周遊プランの作成や周遊バスの運行、イベント開催の日程調整や共同イベントの開催等に活用するとともに、観光客の周遊に役立つような形の観光カレンダーを作成して情報提供を行う。
- ・ 主要な鉄道駅や道の駅の案内所はもちろんのこと、利用者の多い観光施設や直売所等においても観光案内及び情報提供機能を充実させる必要がある。
- ・ 認定観光案内所では、来訪者への対応の他、ワンストップサービス窓口等観光客の情報ニーズに応じて的確に対応できる体制を構築する必要がある。
- ・ アクセス交通や2次交通についての情報、観光施設の営業時間や休業日、料金等の情報など、最新で実用性のある情報の提供を行えるようにする必要がある。
- ・ 情報が適宜更新され、圏域内の情報を共有している施設等に速やかに伝わる体制を構築する必要がある。
- ・ 外国人観光客の誘致及び受入れに合わせた観光情報の整備と、情報発信・提供を行っていく必要がある。

【観光人材育成について】

- ・ 旅行者を迎える様々な場面で、観光地域づくりマネージャーを中心にお客様を暖かく迎えようとする“もてなしの心”を観光関係者をはじめ、観光客と接する機会のある人たちに広く醸成していく必要がある。
- ・ 各地域における八ヶ岳観光ガイド等の人材を積極的に育成する必要がある。
- ・ ガイドやコンシェルジュのスキルアップや情報交換に資するとともに、人材を有効活用するために、ガイドや所属組織等のネットワークの構築を図る。
- ・ 外国人観光客の受入れに対する抵抗感を取り除く意識改革や、観光案内等直接対応する人材の育成を進める必要がある。

③地域に根ざした固有の魅力

八ヶ岳観光圏では、構成する3市町村個別の問題点及び観光圏共通の問題点を地域の特性及び現状を踏まえSWOT分析を行った結果の結果は下記のとおりである。

八ヶ岳観光圏の「強み」は「自然」「星空」「芸術」「爽やかな気候」等住みやすい環境であり、反面「弱み」として「2次交通」「情報発信力」「認知度の低さ」等インフラ整備の低さがあげられている。また「機会」は「ブランド力」「癒し健康志向」「環境への意識」等自然環境のすばらしさであり、「脅威」として「地域間競争激化」「厳冬イメージ」等があげられている。

このSWOT分析を元に他の競合するエリアに勝る八ヶ岳のキラーポイントを味方につけ、「弱み」、「脅威」を克服する事業を展開し、「日本の顔」といえる当地域の価値「標高差が織り成す四季空間（複数の季節を体感）」と、地域の多様な生産物と暮らしが

「見えるギャップ」で地域に根ざした固有の魅力を発信していく必要がある。

○ハヶ岳のキラポイント

- ・域内の標高差・・・1000mの標高差による、面ではない空を含む空間移動
- ・様々な山々・・・空とのコントラスト（他地域は象徴的な単一の山がメイン）
- ・地域の印象・・・クリーン・エコ ⇒ 清流と日照時間・洗練された街（芸術の街）
- ・域内ギャップ・・・標高差・人の暮らしや文化・自然の恵みからの生産物とその活動

◆SWOT分析結果

内部環境	強み	自然・星空・都心から至近・食・高原リゾート(ブランド)・温泉・芸術・欧風の雰囲気・1000メートル・山の魅力(景観・スポーツ)・爽やかな気候
	弱み	2次交通・情報発信力・日帰り観光・人材育成・認知度低い・地域連携(事業者・住民)の弱さ
外部環境	機会	ブランド力・節電対策・ロケ地・癒し健康志向・環境への意識・FIT化・農山村教育・アラフォー世代・山ガール
	脅威	地域間競争激化・定住者減少・厳寒イメージ・訪日外国人減少・温暖化/環境破壊・レジャー多様化(スキー減少)・交通インフラ向上

◆競合地域との比較

	軽井沢	富士五湖エリア	那須高原	ハヶ岳エリア
クラスターのイメージ	若い女性 シニア夫婦(富裕層)	ファミリー/社員旅行(研修)	ファミリー/若い女性	ファミリー(夏季)/熟年
キラコンテンツと地域のイメージ	圧倒的・国際的な避暑地イメージ ゴルフ/テニスなどスポーツ	富士山/湖	ファミリー施設(テーマパーク) 温泉	ハヶ岳(含む景観) 澄んだイメージ(星空など)
標高	900~1000メートル	800~900メートル	400~500メートル	400~1400メートル (標高差1000m)
気候	・年間平均気温 : 10.2度 ・8月平均気温 : 22.6度 ・冬季最低気温 : -15度 ・降水量(ミリ) : 1000~1500 ・日照時間 : 1880時間	・年間平均気温 : 10.6度 ・8月平均気温 : 23.0度 ・冬季最低気温 : -8度 ・降水量(ミリ) : 1600~1700 ・日照時間 : 1750時間	・年間平均気温 : 9.3度 ・8月平均気温 : 21.1度 ・冬季最低気温 : -21度 ・降水量(ミリ) : 1900~2000 ・日照時間 : 1540時間	・年間平均気温 : 10.7度 ・8月平均気温 : 22.3度 ・冬季最低気温 : -15度 ・降水量(ミリ) : 1100~1200 ・日照時間 : 2080時間
交通手段 (2次交通含む)	首都圏から車で約2時間半 首都圏から新幹線で1時間半 中心エリアまでは徒歩圏内	首都圏から車で約2時間弱 富士急行線/中心エリアまでの路線バス充実	首都圏から車で約2時間弱 新幹線約1時間強 バスはホテルまたは路線バス(1時間に1~2本程度)	首都圏から車で約2時間半 あずさにて約2時間(小淵沢) エリア内リゾートバスなど
宿泊施設 (イメージ含む)	ホテル・ペンション (別荘のイメージも)	温泉旅館/ホテル	温泉旅館/ホテル	ペンション/ホテル (全体的に宿泊のイメージ弱い)
着地商品 体験プログラム	自然を中心とした取組多し (美術館巡り/動物ウォッチング)	家族向けアクティビティ多し (湖を活かした展開)	山岳・トレッキング系 美術館・ものづくり多数	自然を活かした展開 山岳・トレッキング系 農業(酪農)体験など

(4) 観光圏の整備に関する基本的な方針

前述の観光圏を実現するためには、恵まれた地域の資源を活かし多様な魅力を創造し、利用環境を整え、それらの情報を発信していく必要がある。

そのようにして国内外の様々な人に喜ばれる滞在型観光地を創造していくために、以下に掲げる5つの方針を設定する。

◆基本方針1. 滞在型観光地としての八ヶ岳ブランドの形成

東京から2～3時間圏に位置し、八ヶ岳、南アルプス、富士山、瑞牆山などの優れた山岳の眺望と豊かな自然環境の中で、散策、スポーツ・レクリエーション、ティータイム、食事等を楽しみ、のんびりくつろぎ、手近にアートに接し、音楽を楽しみ、星空を眺め、あるいは地元の人と馴染みのように会話を楽しむ。そこにあるのは特別なメニューではなく、景観・環境を付加価値とした質の高い日常の延長のような体験である。八ヶ岳の湧水や南アルプスの清流がもたらす名水のような素材の品質、焼きたての上質なパンや清泉寮のソフトクリームのような商品の品質、“もてなしの心”がもたらすサービスの品質がそれを生み出す。しかも1000mの標高差が織りなす微妙な時間軸のずれが訪れる人に心地よい違和感と、日照時間の長さがどこの競合する観光地より活動しやすい環境を与え、そこに様々な滞在プログラムを組み合わせることで、居心地の良い、飽きの来ない滞在型観光地としての魅力が発揮される。

特徴のある優れた景観と訪れる人それぞれに様々な滞在プログラムを発信していくことで、滞在型観光地としての八ヶ岳ブランドのイメージを形成していく。

◆基本方針2. 魅力の選択肢づくりによる連泊滞在、リピートの促進

旅行者の連泊滞在やリピートの促進には、魅力の多様な選択肢があることが不可欠である。楽しみ方を自分の好みや気分で選択したり、順番に楽しんだり、同行者に合わせて選んだり、あるいは旬の味覚のようにその時々ベストのものを選択したり、お得なプランを選択したり、朝・昼・夕・夜という時間帯の違いがもたらす魅力を楽しんだり、また、季節ごとの魅力を目的としたりと、様々な選択ができるところが飽きの来ない豊かな場所となる。

そのような魅力の選択肢を豊かにするためには、地域資源の有効活用が必要不可欠であり、様々な地域固有の資源を再評価しながら、それらを顕在化させるとともに、地域ならではの魅力や質の高さの魅力、組合せによる魅力、人やサービスあるいは景観等の付加価値による魅力など、選択できる滞在プログラムを豊富化させて行く。

また、この圏域は標高の低い塩川下流の北杜市明野町から原村中央高原や清里の高原エリアの間には約1,000mの標高差があるので、季節の訪れる時期に差があり、例えば桜の開花を追って旅することができるし、あるいは4月上旬の桜を見逃しても4月下旬の桜を楽しむことができるというような選択肢もある。

◆基本方針3. わかりやすくスムーズな利便性の高い交通環境の整備

J R中央本線の特急列車の停車本数の増加と、それに接続する圏域内の各地域へアクセスするバス路線の充実、高速直通バスの導入、高速バスの拡充と停留所からの接続バスの導入などにより、八ヶ岳観光圏へのアクセス交通を充実させていく。既存の「茅ヶ岳・みずがき田園バス」、「清流と甲斐駒ヶ岳周遊バス」、「八ヶ岳高原リゾートバス」、「清里ピクニックバス」の拡充や再編も含めた圏域内の観光ポイントを結ぶ路線の充実、登山道や遊歩道の起終点へアクセスする路線の整備等、利用しやすい2次交通のネットワークの整備等により、わかりやすくスムーズな利便性の高い交通環境を実現していく。

また、自動車利用者には農道や林道等も合わせた観光利用に適した道路網の整備とわかりやすい案内サインの整備により、安全性、走行性、目的地への到達利便性の高い道路環境を実現するとともに、道の駅等の休憩機能、情報提供機能を備えた立寄り拠点を適宜整備して利用の利便性を向上させていく。

公共交通機関ではフリーパスの導入等により、利用しやすさを向上させるとともに、マイカー来訪者の公共交通機関の利用を促していく。

◆基本方針4. 観光情報の整備・共有化と実用性のある情報発信・提供体制の整備

これまで県境で断絶していた観光情報を一体化して整備し圏域内で共有するとともに適宜更新される体制をつくる。

整備した情報はプロモーション用に、あるいは観光客のニーズに応じた的確に発信、提供できるように整理・加工し、ホームページや観光パンフレット、観光マップ等の媒体にして活用する。花や紅葉、祭、イベント等の時期を掲載した観光カレンダーや一目で八ヶ岳観光圏の立体感の感じられる空間マップ、ファミリー向けやカップル向けのパンフレットなど目的に応じて利用しやすい情報を整備する。

また作成した空間マップ等は主要な鉄道駅や道の駅、観光地の入口その他の観光案内所に加え、利用者の多い観光施設や直売所等の施設でも観光案内や観光情報の提供を受けられるようにする。特に認定観光案内所では観光客へのワンストップサービス窓口の機能や電話やメール等による問合せへの対応、滞在プログラム紹介等を行うようにする。

外国人観光客に対しては、当面はパンフレットの作成とホームページによる案内を主として、問合せは対応に時間のとれる郵便やメール等に限定し、ニーズが高まり利用者が増えた段階で、外国語対応の案内スタッフを育成したり、インターネットによる通訳サービスを活用したりする。

◆基本方針5. 魅力ある地域づくりを担う人づくり

観光客の多様なニーズに対応し、観光地域づくりアドバイザーを中心に質の高いサービスを提供できる観光人材の育成や、地域資源を活かした各種滞在プログラムのガイド等の養成、外国人観光客の受入れに対応できる人材の育成、地域の優れた景観や環境を守り育てる地域住民の育成など、魅力ある地域づくりを担う人づくりを推進する

4. 観光圏整備事業の概要

八ヶ岳観光圏が目指すコンセプト「1000mの天空リゾート八ヶ岳 ～澄みきった自分に還る場所～」を実現するために、戦略的に推進していくための施策の主なものは下記のとおりである。

(1) 主たる滞在促進地区を起点とする滞在プログラム企画促進、魅力向上等事業

○森林資源の保全・活用事業（H25～H29）

実施主体：一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメント

一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントが中心となり、山梨県、長野県、北杜市、富士見町、原村において歩道や案内板を整備するとともに、景観や視覚に配慮した森林整備を行う。

○滞在プログラムの開発と販売促進策の検討（H25～29）

実施主体：一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメント

一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントが中心となり、八ヶ岳観光圏ならではの観光素材を活用した滞在プログラムの造成を推進する。

(2) 主たる滞在促進地区における事業

○観光情報の共有化と発信

実施主体：一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメント

八ヶ岳観光圏の知名度を高め、誘客に結びつけるため旅行者に対して、旬の観光情報をホームページや観光パンフレット・マップなどを活用して、随時・適切に提供する。

(3) 交流地区における滞在・回遊促進事業

1) 各交流地区において、地域の特性を感じられるような事業を行う。

○各交流地区における滞在・回遊促進事業

実施主体：一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメント

交流地区の魅力を訪れる人全てが体感できる主だった場所の総合的な開発、整備を行う。また各交流地区における誇りある魅力的な地域資源をそのエリアに住む人々と連携し発掘・整理を行い、主たる滞在促進地区と連携した交流、回遊プログラムの企画・開発を行う。

(4) 住民に対する意識啓発等事業

○八ヶ岳魅力塾の開催（H25～29）

実施主体：一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメント

「住んでよし、訪れてよし」の観点から圏域内の住民に対して、圏域の魅力を再

発見し、自らが暮らす地を語るができるように啓発事業を行う。。

(5) その他の事業

下記 a～e により事業を行う。

- a. 観光旅客の宿泊に関するサービスの改善及び向上に関する事業
- b. 観光資源を活用したサービスの開発及び提供に関する事業
- c. 観光旅客の移動の利便の増進に関する事業
- d. 観光に関する情報提供の充実強化に関する事業
- e. その他観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に資する事業

5. 協議会に関する資料等

(1) 協議会名称

八ヶ岳観光圏整備推進協議会

(2) 協議会構成員

平成 25 年 月 日現在

構成員	名称	役職名	代表者名	協議会の職名
県	山梨県	知 事	横内 正明	顧 問
	長野県	知 事	阿部 守一	顧 問
市町村	山梨県北杜市	市 長	白倉 政司	会 長
	長野県富士見町	町 長	小林 一彦	副会長
	長野県原村	村 長	清水 澄	副会長
観光団体	北杜市観光協会	会 長	浅川 力三	
	富士見町観光協会	会 長	窪田 福美	監事
	原村観光連盟	会 長	清水 澄	
商工団体	北杜市商工会	会 長	輿水 順彦	
	富士見町商工会	会 長	窪田 福美	
	原村商工会	会 長	五味 光亮	監事
農業団体	梨北農業協同組合	組合長	堀川 千秋	
	信州諏訪農業協同組合	組合長	雨宮 勇	
交通関係	東日本旅客鉄道(株) 八王子支社	支社長	佐藤 裕	
	東日本旅客鉄道(株) 長野支社	支社長	尾高 達男	
	山交タウンコーチ(株)	代表取締役	水口 紀	
	山梨峡北交通(株)	代表取締役	野口 正人	
	アルピコ交通(株)	社 長	古田 龍治	
財団	(公財)キープ協会	理事長	茅野 徹郎	
社団	(社)八ヶ岳ツーリズムマネジメント	理事長	小林 昭治	代表者
	(社)やまなし観光推進機構	理事長	松井 政明	
	(社)富士見町開発公社	理事長	小林 一彦	
その他	NPO 清里観光振興会	会 長	小林 勉	
	八ヶ岳南麓やとわれ支配人会	会 長	小林 昭治	
	富士見高原保健地管理(株)	代表取締役	福田 敏明	
	富士見高原ペ ンションレゾ ン	自治会長	谷岡 健一	

(3) 八ヶ岳観光圏整備推進協議会規約(案)

第1章 総則

(名称)

第1条 この協議会は、八ヶ岳観光圏整備推進協議会(以下「協議会」という。)と称する。

(事務所)

第2条 協議会は、事務所を山梨県北杜市須玉町大豆生田961-1に置く。

(目的)

第3条 協議会は、観光地相互間の連携によって観光圏を形成し、その観光の魅力の増進により国際競争力を高め、内外からの観光客の来訪及び滞在を促進することを目的とする。

(事業)

第4条 協議会は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 観光圏整備計画の策定に関する事業
- (2) 観光圏整備実施計画に関する事業
- (3) 観光地域づくりプラットフォーム支援事業に関する事業
- (4) 観光圏の認知度向上及び観光客の誘致並びに満足度の向上のための事業
- (5) その他協議会が定める事業

第2章 構成員等

(協議会の構成員)

第5条 協議会の委員は、次の各号に掲げるものをもって組織する。

- (1) 山梨県
- (2) 長野県
- (3) 北杜市
- (4) 富士見町
- (5) 原村
- (6) 構成する市町村に所在する観光、交通、経済、農林水産畜産業に関する団体、事業者
- (7) その他協議会が必要と認める者

(届出)

第6条 構成員は、その氏名及び住所(構成員が団体の場合については、その名称、所在地及び代表者の氏名)に変更があったときは、遅滞なくその旨を届けなければならない。

第3章 運営等

(協議会の運営)

第7条 協議会の議決の方法は、多数決とし、可否同数の場合は議長の決するところによる。

2 協議会は、原則として公開とする。

3 協議会の事務局は、北杜市役所産業観光部観光課において処理する。

(役員)

第8条 協議会に次の役員を置く。

(1) 会長 1名

(2) 副会長 2名

(3) 監事 2名

2 会長は、北杜市長を充てる。

3 副会長は、富士見町長、原村長を充てる。

4 監事は、総会において、互選によって決定する。

5 本会に顧問を置くことができる。

(1) 顧問は、会長が委嘱する。

(役員職務)

第9条 会長は、協議会を代表し、会務を統括する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は欠けたときは、その職務を代理する。

3 監事は、会計を監査する。

(ワーキング部会)

第10条 本会の円滑な運営を図るためワーキング部会を置く。

2 ワーキング部会は、山梨県、長野県、構成市町村のほか、会長が必要と認める団体、事業者等から選出し、会務執行上必要な調査、研究、企画立案を行う。

3 ワーキング部会は、会長が招集する。

4 ワーキング部会に座長を置く。

第4章 総会

(総会の種別)

第11条 協議会の総会は、通常総会および臨時総会とする。

2 総会は会長が招集し、議長となる。

3 通常総会は、毎年1回以上開催する。

4 臨時総会は、会長が必要と認めたときに開催する。

(協議結果の取扱い)

第12条 協議会において協議が整った事項については、協議会の構成員はその協議の結果を尊重しなければならない。

(議事録)

第13条 総会の議事については、議事録を作成しなければならない。

2 議事録は、次の各号に掲げる事項を記載する。

(1) 日時及び場所

(2) 委員の現在数、当該総会に出席した委員数、当該総会に出席したと見なされる者の数及び当該総会に出席した委員の氏名

(3) 議案

(4) 議事の経過の概要及びその結果

(5) 議事録署名人の選任に関する事項

3 議事録は、第2条の事務所に備え付けておかなければならない。

第5章 業務計画

(業務計画)

第14条 協議会の業務計画は、会長が作成し、業務開始前に総会の議決を得なければならない。

2 前項の業務計画を変更しようとする場合についても、同様とする。

第6章 会計

(事業年度)

第15条 協議会の事業年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(資金)

第16条 協議会の資金は、次の各号に掲げるものとする。

(1) 国土交通省の補助金

(2) 構成市町村からの負担金

(3) その他の収入

(資金の取り扱い)

第17条 協議会の資金の取扱方法は、別途会計処理規程で定める。

(事務経費支弁の方法等)

第18条 協議会の事務に要する経費は、第16条の資金をもって充てる。

(収支予算)

第19条 協議会の収支予算は、事務局が作成し、事業開始前に総会の議決を得なければならない。

第7章 代表者

(代表者)

第20条 総会の決定に基づき観光地域づくりプラットフォーム支援事業の業務を執行するために代表者を置く。

2 協議会の代表者及び観光地域づくりプラットフォーム支援事業費補助事業は、次に掲げるものとする。

(監査等)

第21条 事務局は、毎事業年度終了後、観光地域づくりプラットフォーム支援事業の代表者に対し、当該補助事業に関する監査を実施しなければならない。

2 事務局は、監査終了後において、監査報告書を作成して会長に報告するとともに、会長はその監査報告書を総会に提出しなければならない。

第8章 雑則

(細則)

第22条 観光地域づくりプラットフォーム支援事業費補助金交付要綱その他この規約に定めるものの他、協議会の事務の運営上必要な細則は、会長が別に定める。

附則

1 この規約は、平成21年8月21日から施行する。

2 設立当初の事業年度は、第15条の規定にかかわらず、設立の日から平成22年3月31日までとする。

6. その他市町村又は都道府県が必要と認める事項

(1) 社会資本整備等との連携

本計画の前提となる社会資本整備等について以下に示す。

①地域活力基盤創造計画

○「活力のある自立した地域経済社会の形成（山梨県地域活力基盤創造計画 No. 1）」

- ・ 交通ネットワークの充実による地域の産業競争力の強化や地域内外の交流・連携による地域の自立・活性化、地域の魅力・交通快適性を向上させる道路整備と併せて、地域の魅力を向上させる環境整備を行い、活力ある自立した地域経済社会を形成する。
- ・ 計画期間：平成 21～25 年度

○「県民が安全・安心で快適に生活できる環境の確保

（山梨県地域活力基盤創造計画 No. 2）」

- ・ 安全安心快適な走行及び歩行空間の確保や少子高齢化社会に対応したユニバーサルデザインやウォーキング・トレイルの推進、交通安全対策の強化と併せて、安全安心・災害に強いまちづくり、観光の振興による暮らしやすい生活環境を創造する。
- ・ 計画期間：平成 21～25 年度

○「生活者の視点に立った暮らしやすい生活環境の創造

（山梨県地域活力基盤創造計画 No. 3）」

- ・ バリアフリー化による移動の安全と利便性の向上、人にやさしい歩道や交通の充実、道路利用者の利便性向上、良好な景観及び住みやすい環境の形成と併せて、安全安心・災害に強いまちづくり、観光の振興による暮らしやすい生活環境を創造する。
- ・ 計画期間：平成 21～25 年度

○「やすらぎとゆとりを感じる観光まちづくり

（山梨県地域活力基盤創造計画 No. 7）」

- ・ にぎわいを生み出す観光拠点の活性化や観光地へのアクセス性を向上させる街路事業と併せて安心して観光できるまちづくりの環境整備を行い、やすらぎとゆとりを感じる観光まちづくりを行う。
- ・ 計画期間：平成 21～25 年度

○「交通ネットワーク整備による都市の骨格軸の形成

（長野県地域活力基盤創造計画 No. 8）」

- ・ 都市圏の域内の慢性的な渋滞により生じている都市機能の低下を解消し、円滑な交通を確保することにより、都市圏を一体化する道路網の整備を行う。都市

計画の整備により、中心市街地への到達時間の短縮や通行の安全性、利便性が向上する。

- ・ 計画期間：平成 21～25 年度

(社会資本整備総合交付金)

○小淵沢駅舎改築・駅前広場整備事業

- ・ 鉄道利用者の利便性向上に向けて観光の振興とともに、暮らしやすい生活環境を創造する。

○村道 7048 号線、9002 号線、7254 号線、5187 号線、2007 号線の整備

- ・ 道路利用者の利便性向上、良好な景観及び住みやすい環境の形成と併せて、観光の振興による暮らしやすい生活環境を創造する。
- ・ 計画期間：平成 21～25 年度

○村道 2013 号線駐車場整備

- ・ 高速バス利用者の駐車場整備をすることにより、地域住民の利便性や人口増加を図る

○阿久遺跡公園環境整備事業

- ・ 阿久遺跡の広く P R し遺跡を理解していただくとともに多くの見学者を誘客できる・

○八ヶ岳自然文化園眺望確保事業

- ・ 文化園北側の蓼科山方面の眺望及びまるやち湖から八ヶ岳の眺望を確保し 360 度の眺望を確保する。

○八ヶ岳森の小径の整備（藤尾根の小径整備事業）

- ・ 八ヶ岳や南アルプス、富士山の眺望をはじめとした当観光圏内の素晴らしい自然を眺めることのできる場所の整備や景観道路、トレイル道の整備を行う。
- ・ 計画期間：平成 21～25 年度

(2) 既存事業との効果的な連携

観光圏整備事業の実施に際しては、観光まちづくり関連の既存の主要な国庫補助事業等との効率的・効果的な連携を図るものとする。